



佐高 *SGH*通信 2020

スーパー グローバル ハイスクール

No.1 (2020年4月20日発行)

SGH 最終年度5年目へ!

SGH アドバイザー「遠隔」会議を行いました!

~Zoom を活用したオンライン方式で開催~

令和2(2020)年4月14日(火、14~15時)に、SGH 指定校最終年度である5年目の始動となる「SGH アドバイザー会議」を行いました。新型コロナウイルス感染拡大をふまえ、これまでの体育館でのキックオフセレモニーに代わり、**本校と東京海洋大学、宇都宮大学の三者を、画面对話を行うアプリ「Zoom」を活用し、オンラインで**つないで開催されました。初めての試みのテレビ会議でしたが、下記の通り有意義な会議となりました。

◇会議参加者

東京海洋大学教授 小松 俊明 先生
 宇都宮大学教授 松金 公正 先生
 (佐野高校SGH統括アドバイザー)
 佐野高校・附属中学校から青柳育夫(校長)、
 大嶋浩行(SGH推進部長)等9名の計11名

◇オンライン会議の内容

- ・昨年度のSGH活動と今後の計画(報告)
 - ・今年度の計画・活動について(協議)
- ①「新型コロナウイルスによる計画変更、今後どのような取り組みが考えられるか」

「ディベート大会などは、**この会議のようにオンラインでの開催**を。意見交換はビデオレター方式がある」

「**大学の先生がオンラインで佐高生を指導**することが可能だ。しかも同時に複数の大学教員が指導できる」

「(ネット環境が整った前提で)佐野や足利の生徒達で、**夏にサマースクール**を実施してはどうか。」



・オンラインで専門家のアドバイスを受けるSGH担当教諭(下写真)



②5年間指定の最終年度での取り組み、ポストSGH構想へのアドバイス

(大嶋) 生徒の研究発表の場が今年は限られる。どのような代替機会が考えられるか。

(小松)すでにオンラインで発表の機会がある場に佐高も参加していくのは可能だ。しかしながら、そのような機会ができるのを、ただ待っているのではなく、**今後少しずつ自分たちでプロデュースしていくのがよい**。今は機会激減の感もあるが、ゆくゆくは学び方のオプションを広げることになる。

(松金) オンラインのメリットは遠くとつながれることだけでなく、佐高の地元、**周囲でも縁の薄かった人や機関とのつながりがメリットだ**。この4年間で培ってきたことを周囲とシェアできる。カナダでの英語を使った研究プレゼンも大切な機会なので、オンラインで発表できないか。マレーシアも台湾も時差が少ないので、今のうちに新しい企画を相手側と考えよう。

(小松) 大規模な発表の場は難しくても、オンライン会議だと多数が参加できる。**台湾の英語ができる大学院の学生や、東京海洋大学、宇都宮大学の学生たちと佐野高校生とのオンライン・ディスカッション**を行う。教授がモデレーターを務め、最後に講評する。小さな規模のものを、数多く実施するとよい。

(松金) バーチャルでの活動と実際現場での活動と両方ができる人材育成という流れになっていこう注意点としては、**新型コロナウイルス対策が長期戦になることは間違いない。緊急事態が終わることを皆待っているが、この状態を日常化していくことが大事だ**。

(中條) キャリアパスについてお聞きしたい。国内外両方を視野に入れて、ということか。

(小松) もちろん。そういう生徒がいれば。学部レベルだと台湾、シンガポールは難しいが、ヨーロッパなどでは、インターナショナル・プログラムで進学できる大学もある。アメリカ・アイビーリーグの大学は学費がかかるが、海外には学費が無料の大学もある。いろいろ研究されては？！

(校長) 貴重なアドバイス感謝します。この状況の終息を待つだけでなく、この日常で何ができるかを考えることができるか、が大切だと気付くことができました。ありがとうございました。



画面上で双方向の会議を行う様子です。音声もクリアでした。(上写真)



『下野新聞』に載りました。
(令和2(2020)年4月15日)

部員大教授とテレビ画面を
通して会議はスタートし
た。「これを契機に本年度
をインベションの1年に
したどうか」を提言した。
青柳校長は「初めての遠
隔会議だが、予想以上に有
実だった。働き方改革でも
求めた。これに対し入
役に立つのではないかと
の教授は「集まらないアメ
話していた。(柴田正人)